

総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会小委員会の設置について

分科会等名：可視化の新パラダイム策定小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	総合工学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	理工学分野を横断するデータ可視化技術の効用は、1980年代後半に欧米の研究機関から発信が開始され、四半世紀をかけてあらゆる学理に浸透してきた。その技術を今後さらに発展させていくためには、強力な計算パラダイムを新たに策定する必要がある。本小委員会では、第24期に続き、(i) 可視化と接点をもつ情報学周辺の最新シーズの利活用に加え、(ii) 可視化が重要な役割を果たしてきた代表的な理工学応用分野からの新たなニーズの発掘、そして、(iii) 可視化情報の最終評価者である人間の知覚・認知の本質的理解という互いに直交する三方向からこの課題にアプローチし、可視化新パラダイムの具体化を目指す。
4	審議事項	1. 可視化と接点をもつ情報学周辺の最新シーズの利活用の調査 2. 代表的な可視化応用分野からの新たなニーズの発掘 3. 可視化情報の最終評価者である人間の知覚・認知の本質的理解 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和3年1月28日 ～ 令和5年9月30日
6	備考	※事実上24期からの継続